

2022 年度 自己点検・評価報告書

教育学部評価分科会

2023 年 2 月

基準4 教育課程・学習成果

2023年度カリキュラム改訂を予定している学部・研究科については、下記の内容について記入ください。

- ・ 授与する学位ごとに、学位授与方針を適切に定めているか。
- ・ 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を適切に定めているか。
- ・ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【1】2021年度の自己点検・評価で課題となった事項

自己点検において課題とはなっていなかったが、通教の科目責任者と学部の科目担当者のずれの解消が懸案として認識されていた。

【2】2022年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

- ・ 21年11月の教授会で通教の科目責任者についてその役割も含め再確認し、退職者との交代を漸進させ23年度から学部・通教間の整合性を高める。
- ・ 2023年度からの新カリキュラム検討に際し、21年11月の教授会から複数回の審議を経て学位授与方針（DP）を適切に定めた。これを受け、22年年度にはDPに対応した科目ごとのLOを設定し、教育課程の編成・実施方針（CP）を踏まえたカリキュラムマップを学部教務委員会で検討する。
- ・ 新カリキュラムの成果（DP達成度）点検を行うアセスメントプランを学部FD委員会で検討する。
- ・ 入学者増を意識し、高校生に魅力的なカリキュラム編成をめざす。そのために次の4点を新カリに合わせて進展させる。

- ① 心理系科目の課程登録者以外への開放
- ② 共通開設などを活用した教職科目の効率化
- ③ 人間教育・平和教育など高校生に訴求する科目の新設・明示化
- ④ ESD/SDGsとの関連付けを強調し国際教育の特長の明示

<最終報告までの達成目標>

- ・ 23年度の通教の科目担当者がすべて決まる。
- ・ DP, CP, および AP（アセスメントプラン）が定まる。

【3】2022年度の方針の点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の方針の点検】

- ・ DP, CP, AP が適切に設定されたかどうか、教授会で審議・確認する。
- ・ 新たな DP 及び CP について、学生（代表）の理解・承認を得る。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

- ・ 受験生に対して魅力あるカリキュラムとするために、それぞれの学科の強味・特長を生かした教育成果の発信を計画的に行う。

基準5 学生の受け入れ

- ・ 学生の受入のための広報活動、および学生の受け入れの適切性について、点検・評価を行っているか。
- ・ 受入れ制度ごとに学生の学習状況を把握し、点検を行っているか。

1. 学生の受入のための広報活動、学生の受け入れの適切性について

【1】2022年度の方針・改善計画・取り組み等（および中期的な改善計画）

<方針・改善計画>

- ・ 22年度入試における定員割れを受け、23年度入試啓蒙策として各学科の強みを明確にアピールする。具体的には児童教育学科における教員養成、教育学科における心理系科目の充実、および学部としてのユネスコスクール支援をPRするYouTube動画を作成し、学部HP上で公開する。また、近郊の競合校受験生に対し、進研アドのDMメッセージを配信し、新たな受験生獲得に努める。
- ・ 学部学生委員会を中心に入試区分ごとに学生の学習状況を把握し、点検を行う。

<最終報告までの達成目標>

- ・ 入学者数の増加（定員割れの回避）。

【2】2022年度の取組みの点検・評価と2023年度以降の方針

【2022年度の取組みの点検】

- ・ 当初、5月末公開をめどに作成を進めた学部PR動画を7月中旬から公開することができたが、その成果について、アクセス数などから点検する。
- ・ アドミッションズセンター及び企画広報課と連携し、ベンチマークとの比較を行う。

【今後の課題および2023年度以降の方針】

- ・ 入試区分ごとに学生の学習状況を踏まえ、次年度の初年次セミナーのグループ編成を検討する。

学生の意見聴取

- ・ 履修、授業、DPに関すること
- ・ 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
- ・ 学生生活アンケートから見える本学の傾向性について

【1】2021年度の意見聴取をもとに実施した検討や取り組みの内容

2021年12月に学部の新DP案について学生代表と検討の機会を持った。そこでの検討を受け、DPの文言を修正したが、今年度5月に全学DPとの調整があり、結局、学生と検討したものは残らなかった。

【2】2022年度の意見聴取を踏まえた2023年度以降の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

・2月24日、学部 DP, CP, AP が整ったので学生代表との協議・懇談の機会を持った。新カリの特徴であるキャップ制の厳格化、週二回 4 単位科目の新設、カリキュラム設計の背景などを説明し、賛同を得た。

・合わせて、大学不適合（低学力あるいは低スキル）層に関する教員側の認識を伝え、SA の活用を含む対策の是非について意見交換を行った。SA など上級生との関係構築もさることながら、同期同士の横のつながり強化について要望があり、初年次セミナーなど新入生指導に際し留意することになった。